

## 毎日味わおう日本語の魅力

日本語の魅力をもっと手軽に楽しんで  
もらおうと、大阪教育大学（大阪府柏原  
市）が文具メーカー「ドゥー」（大阪府  
東大阪市）と連携して、メモ帳サイズの  
日めくりカレンダー「和歌のしらべ三六  
五番」（税込み千円）を作った。2月下

### 大阪教育大 企業と製作

旬ごろから、各地の博物館などで販売す  
る予定だ。春には同形の「残したい日本  
語」（仮称）も発売することになってい  
る。生涯学習などで古典への人気が高ま  
っている中高年の方に役立てて欲しい、  
としている。

「和歌のしらべ」は、同  
大の小野恭靖助教授（日本  
歌謡史）が編集した。「百  
人一首」などから、自然詠  
だけでなく恋歌も含めた和  
歌366首を選び、季節の  
イメージに合わせて「一  
番」から「三百六十六番」  
まで一枚ずつ順に並べた。  
一つひとつにそれぞれ現  
代語訳と解説を加え、和歌  
の「入門書」としても活用  
できる。分量的には薄い本  
1冊分くらいになるとい  
う。

「和歌とともに印刷され  
ているイラストも、歌のイ  
メージに合うように1首ず  
つ替えるといったこだわり  
ようで、日付を書き入れれ  
ばカレンダーになる。バラ  
バラにしてメモ用紙として  
使うこともできる。

同大では昨年、各教科の  
教員が書いた豆知識をまと  
めた日めくりカレンダーも  
企画、販売している。第2  
段として、高齢者の古典人  
気に目をつけ、1年半ほど  
前から準備してきた。

小野助教授は「日本の古  
典の人気は、年配の人を中  
心に広がってきている。よ

り多くの人たちに使っても  
らいたい」と話す。

「残したい日本語」に  
は、聞き慣れてはいるが意  
味がわかりにくい言葉や、  
歌舞伎のせりふなどが盛り  
込まれる予定だ。「一つひと  
つに、意外と知られていな  
いような解説なども付け  
て、知識としてためになる  
だけでなく、言葉遊びとし  
ても楽しめる内容にするこ  
とをいう。

大学と企業間では、理工  
系では産学連携による商品  
開発は進んでいるが、文系  
ではまだ少ない。

共同研究の代表者である  
同大の任田康夫教授は「面  
白い商品でなければ売れな  
いが、大学が携わる以上、  
どれだけ売れても面白いだ  
けのものでは困る。文化的  
なものを目指した」と話し  
ている。

大阪教育大が産学連携で作  
った日めくりカレンダー「  
和歌のしらべ」

心広がり

カレンダーなどの問い合わせは「ドゥー」企画開発  
室（06・6747・3887  
1）へ。